

長岡京出土の樽木簡 くれ

<http://www.kyoto-arc.or.jp>
(財) 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



木簡が出土した流路（南東から）

長岡の都

東山の南部、伏見から北西を眺めると南北に長い丘陵が目につく。現在は宅地開発が進んでいるが、まだその大半は竹藪のため季節により彩りを変え、背後の西山と対照をなしている。

古くこの地が「長岡」と呼ばれたのは、この丘陵に由来したためと考えられ、長岡京はその先端の東斜面に大極殿・朝堂院などの宮の中中枢部を造営した都である。平城京から長岡京への国を越えた都城の移動は、中央・地方の政治構造や手工業生産に大きな影響をあたえた。

長岡京での木簡の出土

1955年前後から開始された長岡京の調査はこれまで30数年を経過

し、宮・京の遺構が全域に広がり、その大体の輪郭を確認することができた。しかし、宮・京の四至の境界もいまだ明確ではなく、今後とも継続して調査を行なう必要がある。

長岡京の木簡は向日市の向陽小学校建設にともなう調査で検出された流路から、「八條四甕納米三斛九斗」と書かれたものが出土したのを初出とする。その後の調査で、「鮑背舖」・「氷頭」などの物品の付札をはじめとして、木簡の発見が相次いでいる。

長岡京での木簡・木簡削り屑の出土点数は現在5,500点前後を数えるが、その内4,000点弱はこれから述べる左京一条三坊の調査で出土したものである。

長岡京時代の流路

この調査は1988年12月に南区久世東土川町で行なわれ、弥生時代から中世の各時代の遺構を検出した。長岡京に関係する遺構は流路・南北棟建物・櫛列があるだけで、遺構の密度が極めて低い。

木簡の出土した流路は時代によって規模を変えて流れ、古墳時代から平安時代まで継続する。長岡京時代は南流し、調査区内で南東に向きを変えている。規模は幅15m以上、深さは1.0~1.6mで西肩沿いが深く、東部は浅い。

この流路は調査地の北西、久世中学校で発見された流路につながるもので、ここでは、大規模な護岸工事の跡を発見した。規模は約50mに復元される。

今回調査した流路からは木簡が約300点、削り屑が3500点以上出土した。木簡を中心とする遺物は西肩の3箇所からまとまって出土したが、その内容は各地点ごとに差がある。

南地点からは木簡とその削り屑をかためて肩口から廃棄した状況がうかがえるが、土器類は極めて少ない。中央地点からは少量の木簡と多量の箸などの木製品、栗・茄子などの種子が出土した。北地点からは土師器・須恵器などと、箸などの木製品が混在して、木簡が出土した。

木簡と削り屑が大量に出土した南地点の流路底は、他の地点に比べ深く、底から墨書人面土器・和銅鏡跡など祭祀に用いられた遺物が出土した。

木簡の内容

出土した木簡・削り屑には、「^印」「^印」「^印」「^印」「^印」「^印」「^印」「^印」などの物品名、「川原万呂」・「御使當羅」・「ト部清成」などの人名、「近衛府」・「兵衛府」・「中務省」などの役所名がある。

多数の木簡が出土したにもかかわらず、年号の記載がなく月日を書くのみで、年代を決めることができない。ただ、「授田使 大和長

^官神王」と書かれた習書の木簡があり、神王が授田使を努めたのは延暦五・六年（786・787）であり、その前後の年代が推定される。

博という字の記載のある木簡と削り屑は、合せて7～8点出土し、保存状態の良いものは、「十六村」と書かれた所に朱で「請」、月日の所に「少志」とそれぞれ記入してある。また、四月二十二日の日付のある博木簡は2点（1・2）あり、（2）には「今日夕」と長押を進上する時間が記入されている。

「博」とは『延喜式』に拠れば、長さ十二尺、幅六寸、厚さ四寸の未加工の板材のことで、「十六村」とは、板をまとめた単位である。また、「少志」は、「衛門府」・「兵衛府」の下級役人のことで、「請」の朱書によって「少志」が博の搬入をチェックした状況がうかがえる。この他に「穿」・「鑿」と材木を加工したこと示す木簡もある。

まとめ

左京一条三坊六町内の以前の調

査でも東西棟の建物を確認しており、今回の成果と合せると建物の中心は南部にあると考えられる。東部には大規模な流路があり、北部は弥生時代から古墳時代の流路を整地し、広い空闊地を確保している。

材木やその加工に関する木簡が多いこと、多様な役所名や「酒人内親王所」（3）など家政機関を示す木簡が出土していることから、この地が自然流路を利用した、長岡京の造営にともなう材木など物資の陸揚げ地や集積場、またその加工場であったと考えられる。

(1)	進上博十六村	附使川原万呂進上如件以解
(2)	進上博十六村	附使川原万呂進上如件以解
(3)	酒人内親王所	四月廿二日板茂千依 一長押以今日進上以解

木簡軽文



木簡と削り屑